

第1章

新市の概要と沿革

1 新真岡市の概要

(1) 位置と地勢

新真岡市は、東京から約90kmの圏内にあり、栃木県の南東部に位置している。福島空港から宇都宮テクノポリス、筑波研究学園都市を經由して成田国際空港までの幹線軸である「スカイコリドール」と日本海と太平洋をつなぎ、新しい海外に向けた玄関口となる常陸那珂港へ至る「オーシャンコリドール」を構成する北関東自動車道のクロスポイントにある。

地勢的には、関東平野の北端に位置し全域的に平坦な地形で、東部は八溝山系、西部は鬼怒川、南部は茨城県、北部は宇都宮市に接しており区域内を流れる鬼怒川、五行川、小貝川の潤沢な水源を持ち、豊かな穀倉地帯を形成している。

国道294号バイパスと国道408号が新市の区域を貫いており、地域の一体性に大きな役割を果たしている。真岡・二宮両地区をつなぐ公共交通機関としては、真岡鐵道があり、通勤・通学の足として広く利用されている。

(2) 歴史的特性

真岡市及び二宮町は、地理的・歴史的なつながりが深く、鬼怒川、五行川、小貝川の各流域を中心に交流を深めてきた。

19世紀初頭、小田原藩よりこの地域に赴任した二宮尊徳が残した、多くの有形、無形の遺産は今でもこの地域で活かされている。

(3) 面積と人口

面積 167.21km²

人口 83,126人(H21.3.1推計人口)

2 真岡市・二宮町の沿革・概要

(1) 真岡市

真岡市は、栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる大河鬼怒川を抱え、都市計画、工業団地造成、ほ場整備が進み、農業、工業、商業がバランスよく調和した地方都市である。

真岡の地に人が住み始めたのは、市の南東部にある磯山遺跡で発見された石器などから、およそ2万年前の旧石器時代とされている。縄文・弥生・古墳時代を経て、奈良時代の大宝律令で地方の組織機構が定められ、現在の栃木県は下野国と称した。その中に芳賀郡など9つの郡が置かれた。現在の犬伏地区には芳賀郡衙や郡寺があり、古くから芳賀地方の政治経済・文化の中心としてその役割を果たしてきた。

平安時代の後期より各地で武士団が発生してくる。芳賀郡では芳賀氏が出て大内庄(芳賀郡内の主に小貝川から五行川流域)を治めた。鎌倉時代初期に御前(現真岡東中学校付近)に館をたて、室町時代には現在の真岡小学校の地に真岡城を構え、大内庄を500年の長きにわたって支配した。しかし、16世紀末、宇都宮氏とともに没落し、芳賀氏の領地は浅野長政の預りとなった。その後蒲生氏を経た後、真岡領主は浅野長政・堀親良・稲葉正成と続いた。その後小田原城主の大久保氏の飛び地となった。天明3年(1783)からは代官支配となる。

寛政年代(1789~1800)になり、真岡陣屋・東郷陣屋が建てられ、それぞれ竹垣代官、岸本代官が農村復興のために尽力した。その後、東郷陣屋では二宮尊徳が活躍した。17世紀中期頃生産が始まった「真岡木綿」は18世紀初頭には全国にその名が知られる特産品となり、最盛期には年間38万反の生産量を誇ったが、1850年代からは生産量が減少し、次第に衰退していった。

明治22年の町村制により、真岡町・山前村・大内村・南中村(後中村)となり、現在の真岡市の基礎となった。明治の終わりまでに裁判所や警察署、税務署、真岡郵便局の前身が開設され、真岡 下館間を結ぶ鉄道も開通。

また昭和29年3月に真岡町・山前村・大内村・中村の1町3村が合併し真岡町となり、同年10月に真岡市となった。当時の主産業は農業であったが、積極的に工業団地造成、企業誘致に取り組み、現在は80数社におよぶ企業が操業する大規模な工業団地を有するハイテク産業都市として発展を続けている。

真岡市の概要



市制施行	昭和29年10月1日
都市の将来像	市民だれもが“ほっと”できるまち…もおか
市の花	わた
市の木	けやき
市の鳥	ひばり
行政区域面積	111.76km ²
人口*	66,362人
世帯数*	22,130世帯
産業就業比較*	1次 8.4% 2次 41.1% 3次 49.4%
特産品	真岡木綿

H17 国勢調査

(2) 二宮町

二宮町で人々が営んだ最古の痕跡は市の塚遺跡で、約1万年以上前の縄文時代のことである。古墳時代には物部地区に前方後円墳が築造されており、大和朝廷と交流のあったことが知られる。物部の地名は古代からのもので、この地を治めた豪族が大和の大豪族物部氏とつながりがあったことをうかがわせる。

平安時代の中頃になると、律令国家体制が揺らぎ、地方支配制度は大きな転換期を迎える。関東では平将門の乱が起こり、その平定に功のあった藤原秀郷は下野守を任じられ、以降、そ

の子孫が下野国内各地で武士団を形成して発展する。その中心となったのが小山氏から鎌倉時代初めに分立した長沼氏で、初代宗政は鬼怒川沿いの長沼庄を本所として居所を定めた。

鎌倉時代には浄土真宗の開祖親鸞がこの地域で布教活動を行い、その弟子真仏、顕智等は高田山専修寺を拠点としてその教えを広めた。

江戸期に入ると、二宮の各地域はそれぞれ幕府・旗本をはじめ、真岡、下館、土浦、笠間、小田原など各藩の領地となる。

江戸後期になり貨幣経済の進展により商業が盛んになる一方で、この地域の農業は衰退し、農地は荒廃していく。疲弊する農村を救済し、復興することの命を小田原藩主に受け、桜町領（現在の真岡市物井、横田、東沼地区）に赴任したのが二宮尊徳である。

尊徳の教えは、この地の人々に多大な影響を与えた。

明治期になり、小学校が開校、久下田郵便局が開設され、明治40年には陸軍の特別大演習が鬼怒川沿岸などで挙行され、明治天皇が久下田地内の境の高台で統監された。

現在の二宮町は、昭和29年、二宮尊徳の名前にちなみ、久下田町、長沼村、物部村が合併して誕生したもので、以来、二宮尊徳の教えである「至誠」、「勤労」、「分度」、「推譲」の理念をまちづくりをはじめ、様々な分野で実践している。

特に、昭和30年代前半に、6名の農事研究員の手で栽培が開始されたイチゴは、今日では、約400戸の農家が127ヘクタールの作付けを行い、収穫量、販売額ともに日本一となっている。

二宮町の概要



町制施行	昭和29年5月3日
都市の将来像	安らぎと充足の田園居住空間 にのみや
町の花	いちご
町の木	さくら
町の鳥	ひばり
行政区域面積	55.45km ²
人口*	16,640人
世帯数*	4,776世帯
産業就業比較*	1次 24.2% 2次 35.7% 3次 40.1%
特産品	いちご

※H17国勢調査